

市政ニュース

「おもてなしの心」でお客様をお迎えします 城崎温泉の観光案内に人型ロボット「ペッパー」設置

9月16日、城崎温泉さとの湯前で、対話ができる人型ロボット「Pepper」のお披露目会を行いました。

お披露目会には、中貝市長、平田オリザさんの他、城崎温泉の関係者が出席。ペッパーが「城崎温泉にようこそ。そよぐ柳、さらさら流れる大瀬川。宿は客間、道は廊下のおもてなしの心で、お客様をお迎えます」とあいさつしました。



▲ペッパー

このペッパーは、コウノトリ但馬空港の飛行機利用促進のため、城崎国際アートセンターを核とした「パフォーミングアート・ツーリズム」推進の一環として設置しました。城崎温泉ならではの、心のこ



▲会話するほど、話がうまくなるペッパー

もったおもてなしに加え、オリジナルにプログラミングされたペッパーが、市内の観光情報やパフォーミングアートを紹介します。

「まだ子どもなので難しい受け答えはできませんが…」と語ったペッパー。たくさん会話するほど話がうまくなり、近年、増加している外国人観光客にも対応できるよう英語も話します。

現在、城崎国際アートセンターに設置して、人とロボットが温泉街を演出しています。

歩いて広める仲間の輪 豊岡市「職場対抗、歩キング選手権」開催

10月1日、第1回「職場対抗、歩キング」選手権が、市内の20の事業所で始まりました。10月31日までの1カ月間、同じ職場の5人1組がチームを作り、歩いた合計歩数を競い合います。

この選手権は、働く世代の運動習慣のきっかけづくりと本市が推進する「歩いて暮らすまちづくり」のさらなる浸透を目指しています。

参加者は、市から貸与した歩数計を装着し、競い合う楽しさを感じながら、日々健康づくりに取り組みます。

市では、随時暫定順位などをホームページで公表しています。



▲市内の20の事業所が参加

「とよおか家族の日」写真コンクール最優秀賞決定

本市では、10月8日を「とよおか家族の日」、10月を「とよおか家族の月間」としています。

子どもたちが健やかに成長していくためには、家庭・学校・地域がそれぞれの役割を分担し、教育の原点である家庭教育機能の向上を目指すとともに、子どもたちの健やかな育ちを家族と地域のきずなで支援することが重要です。その取組みの一環として第

3回「とよおか家族の日」写真コンクールを開催し、最優秀賞を決定しました。



▲最優秀賞「見送るね!!ばあばあデイサービスへ」(今井美穂さん)

主な市政の動き

【9月】

- 11日・最高齢者等祝福訪問
- 12日・コウノトリ子育て支援メッセ「ジ」夢へのチャレンジ」少年野球教室を開催
- イトーヨーカドー「コウノトリ育むお米産地交流田」稲刈り交流会
- 14日・「いずしのみらい」地域活性化計画中間発表
- 「但馬定住自立圏共生ビジョン」変更
- 「第6回沖永良部シンポジウム」中筋小の結果報告会

- 16日・「Pepper」お披露目会
- 19日・韓国に渡ったコウノトリ写真展(10月3日)

- 「豊岡市移住戦略プロジェクト「TOYOCOME」」ヒアリングジャーニーを開催(21日、25、27日)
- 23日・トヨン和尚と中貝市長のトークセッション
- 25日・地方創生戦略会議
- 29日・新しい地域コミュニティ市民講演会

【10月】

- 1日・「職場対抗、歩キング」選手権開催(31日)
- 「ハッピースクールプロジェクト」(合橋・高橋・資母小)を実施(6日)
- 2日・モンゴル国友好訪問団の受け入れ(7日)
- 5日・高齢者向けスマートフォン教室(7日)
- 6日・学校整備審議会

「コウノトリ放鳥から10年、コウノトリが日韓をつなぐ」トヨシ和尙と中貝市長のトークセッション開催

韓国に飛んで行った2羽のコウノトリに「ボンスニ(出石町伊豆生まれ)」「チェドン(日高町山本生まれ)」と愛称をつけ、現地で見守りながら写真撮影したり、童話を著すなどの活動をしているトヨン和尚(韓国)。9月23日、同氏と中貝市長のトークセッションをコウノトリ文化館で行いました。

トヨン和尚は、ノムヒョン元大統領の故郷に舞い降りた

ボンスニについて「環境に優しい農業をしない。もっと湿地をきれいにしない」というメッセージを持ってきてくれた」、市長は、韓国で初となったコウノトリの放鳥の様子について「韓国の人々の喜ぶ顔は、10年前の豊岡の人々が喜んでいたときの顔と同じ」と語り、2人は豊岡と韓国のこれからの10年についても話し合いました。

その後、トヨン和尚の「韓



▲和やかに行われたトークセッション(左から中貝市長、トヨン和尚、通訳)

国に渡ったコウノトリ写真展」の解説が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

「ジオパークの現状や課題を国際共有」アジア太平洋ジオパークネットワーク(AAPGN)山陰海岸シンポジウム開催

9月17日、学術的価値を持つ地球活動遺産を含む自然豊かな公園(ジオパーク)の現状や課題を、アジア各国が話し合う「第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク(AAPGN)山陰海岸シンポジウム」が、市民会館で開催されました(閉会は19日(鳥取市))。

このシンポジウムは、2年に1度開催され、国内での開催は初。22の国・地域のジオ

パーク関係者や地質研究者ら約千人が参加しました。

ユネスコ地球科学減災課長パトリック・マツキーバーさんと世界ジオパークネットワーク会長ニコラス・ゾウロスさんの基調講演や、4つのテーマに分かれた分科会などが行われました。

市役所市民広場では、ウエルカムパーティーを開催し、山陰海岸の伝統芸能などを披

露。また、24の飲食店が協力した「ジオまちバルIN豊岡」で参加者を歓迎しました。



▲市役所市民広場のウエルカムパーティー

中貝市長の徒然日記 ⑨6

輸出を目指すのだ

今年、コウノトリ放鳥10周年です。今や80羽以上が空を飛んでいます。その野生復帰を支え、同時にコウノトリによって支えられてきたものの代表例が「コウノトリ育むお米」です。

栽培期間中は化学肥料を一切使わず、農薬に頼らず(無農薬又は75%カット)、6月頃

頃に田んぼから水を抜く中干しを、オタマジャクシに足が生えるまで延ばす等々。そんな条件を満たしたもののだけがこの名前を使える仕組みです。作付面積は市内で300ヘクタールを超えています。国内

で大人気の米になりました。ミラノ万博・日本館の和食コーナーで使われている米はすべて育むお米です。万博期間中の消費量は24・5トンの見込みです。

次は輸出です。実は5年ほど前から、三井物産、東邦物産、JAたじまと市で輸出の勉強会をしてきました。東邦物産には職員を2年間派遣し、

海外も含め食糧販売の現場で研修を積ませてきました。

10月上旬、ニューヨークにその職員を派遣しました。日本食材の展示会を視察し、参加者や市内レストランとの情報交換、商談を行いました。

育むお米の酒米のお得意様で酒造会社の本田商店から「うちも出展している。豊岡も出ておいで」とお誘いを受けました。市とJAは、来年度の出展を検討しています。

ミラノへの輸出も始まりです。この夏JAとともに訪問した際、親交を深めた三井物産ミラノ支店の方から「万博のチャンスを生かすべきだ」との提案をいただき、パッタ

ご飯の試験販売が始まります。シンガポールも狙います。東邦物産から日本貿易振興会

(ジエトロ)への提案が採択され、現地の伊勢丹スコッツ店で試験販売が始まります。

共同会見での記者の質問。「なぜニューヨークで?」「ブランド価値を高めるためです」と中貝。「やられっぱなしのアメリカに逆襲を」と、JAの尾崎組合長のお答えでした。

「なぜニューヨークで?」「ブランド価値を高めるためです」と中貝。「やられっぱなしのアメリカに逆襲を」と、JAの尾崎組合長のお答えでした。